

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年1月18日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4675300240
法人名	医療法人 拓和会
事業所名	グループホーム なでしこ
所在地	鹿児島県始良市東餅田428番地1 (電話) 0995-67-7230
自己評価作成日	令和5年12月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和5年12月25日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・利用者の思いを大切にし、情報の共有、ケアの統一を図り利用者の暮らし方や意向を汲み取りながら、個別に利用者に向きあい、ゆったりと過ごせる時間があり楽しく自分らしく生活が出来るように支援している。
- ・ご家族の協力体制があり、運営推進会議や日常の面会も頻回にあり、家族と共に利用者を支えている。
- ・母体の医療機関と24時間対応の連携が整っており、日常の健康管理から終末期医療に至るまでトータルケアができ、安心してホームで生活ができています。
- ・広い庭園を散歩するのが日課になっており、季節を感じたり、気分転換ができ潤いのある暮らしを支援している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、母体医療機関に隣接して建てられている。定期受診や往診・毎日の病院看護師による健康チェック・生活機能向上訓練・家族の要望に沿った看取り介護の実施等、手厚い医療体制が整っており、本人・家族が安心して過ごせる環境である。
- ・家族との玄関での対面面会を実施し、本人・家族双方の安心や精神的安定を図っている。また、事業所からも広報紙及び機能訓練や食事の写真等による近況報告を毎月実施するとともに、自宅付近へのドライブや墓参りに同行する等、家族やこれまでの生活での関りが途切れないように取り組んでいる。
- ・10月から外部の配食サービスを導入し、職員の負担軽減や職員が利用者と一緒にゆっくり関わる等、ケアに専念できるように対応している。
- ・管理者は、職員の質の向上を図るため研修や資格取得を勧めている。また、休憩時間の確保や意見を出しやすい雰囲気づくり等の働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「家族・地域との絆」を大切に生き生きと暮らせることを支えていく地域に根差したサービスを盛り込んだ内容である。理念は玄関、リビング、スタッフルームに掲示し、常に目に触れるようにしている。毎月の会議で理念を唱和し理解を深め、日々のケアを振り返り実践に繋げている。	理念は玄関やリビング等の目につきやすい場所に掲示し、運営規程にも掲載している。毎月、ケア会議で理念の唱和とケアの振り返りを行い、理念の実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は地区の行事や祭りに参加していたが、感染症予防の観点から外部との交流は自粛していた。新型コロナ「5類」移行に伴い地域交流の再開をしたい。	自治会は理事長が加入しており地域情報を得ているが、感染症予防のため参加は控えている。地域との交流は、近隣の散歩時に近隣住民とあいさつを交わす程度である。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	認知症状で困っておられ相談や見学に来られることがある。その際は必要とする支援等相談にのっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	対面での会議を開催している。ひやりハット報告、研修、行事等の報告を行い、会議で出た意見は職員会議で検討し、事業所の取り組み等がわかる議事録を行政、自治会長、苦情相談員、民生委員、ご家族に送付している。	2ヶ月に1回の運営推進会議を3月から対面で実施し、事業所からのヒヤリハットを含めた報告及び意見交換を行っている。地域の情報を得たり、事業所のケアへの取り組みを理解してもらえる機会であり、家族にも議事録を送付している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	担当者への報告・連絡・相談等で連携を行っている。運営推進会議で行政の方から、介護保険の話をお聞きしたり、ホームの様子、実情を伝え協力関係を築いている。	市の担当者とは、運営推進会議時の意見交換や窓口に出向いて報告・相談を行い、連携を図っている。市実施の集団指導や研修に参加し、情報収集にも努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日々の支援の中で気付きをひやりハットで報告し、未然防止に努めている。毎月のケア会議でケアを振り返り、全職員が同じ意識を持ち身体拘束をしないケアに取り組んでいる。定期的な研修では新聞記事などから身近な事例をもとに話し合い統一したケアに取り組んでいる。	指針を作成しており、委員会を毎月、勉強会は年2回実施し、職員は身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックに気づいたら、管理者が会議で取り上げ注意を促している。日中の玄関の施錠はせず、利用者の外に出たい素振りを察知した時は、散歩への同行等で対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の具体例や虐待に繋がる行為を学び日々の介護で自らの行動を振り返り、防止に努めている。毎月のケア会議で虐待に繋がる行為はないか確認し話し合い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び職員は理解している。必要時は関係機関と協力して制度を活用できるようにしているが、現在活用されている方はおられない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前にホーム見学をしてもらい、納得の上で契約を結んでいる。契約時は丁寧に説明し、理解・納得を得ている。改定等の際も説明し、納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者には、日頃の声かけを頻繁にし、思いや意見を聞き出す努力をしている。家族の面会時に相談に応じたりケアプラン作成時に意見等を聞き、できる限り意向に添えるように心がけている。「なでしこ便り」で利用者の暮らしぶり等状況報告をしている。	利用者には、会話の中で要望等を出しやすいように声掛けしている。家族には面会時に職員から声をかけて要望等を出してもらえるように努めている。できるだけ出された要望に沿えるようにしているが、外出の要望については、感染予防のため制限していることを理解してもらっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月会議を行い管理者は日頃から職員が意見を言いやすい雰囲気心がけている。毎日の申し送りや業務の中で職員の気付きや意見、心配な事等情報を共有し、できることから取り組んでいる。	管理者は職員が意見を出しやすい雰囲気づくりに努めており、日常業務の中や会議で職員の提案等を聞き、職員全員の了解を得て業務改善に反映させている。個別相談は管理者が受けて対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	資格取得に向けた研修会参加が出来るよう勤務体制を考慮している。資格を取得することにより資格手当支給があり、向上心を持って働ける職場環境である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	勤務調整をし、研修会への参加や資格取得に向けた講習を受けられるように取り組んでいる。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	同法人のグループホームとは常に情報交換を行っているが外部との直接交流は減少している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際は不安や心配を抱えておられる方が多い。まずは安心して過ごして頂けるように、ゆっくり時間をかけて話を聴き信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問等で現状・要望をお聞きし、ご家族のこれまでのご苦勞や困っておられること、不安に思っておられることを聞き、思いを受け止め安心してもらうように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、不安に対してインフォーマルな支援も含めた必要な支援は何か検討し、できることはすぐ実行し、できないと思ったことは、他のサービス機関に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は得意分野で力を発揮して頂き、感謝の気持ちを伝え自立へ向けた支援をしている。職員は、日常生活の中で利用者から学ぶ機会も多く、アイデアもいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にはいつでも気軽に訪問していただけるようにしている。介護サービス計画の中で家族に担っていただける役割を位置づけ、協力も得ている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力で一時帰宅等の支援に取り組んでいたが現在は自粛している。電話の取次、親しい方からの贈り物が届いたらお礼の電話を入れたり、親戚、兄弟の面会があったら家族に報告している。利用者が長年築いて来られた関わりがグループホーム入居により途切れないようにできる範囲で支援している。	家族との玄関での面会やお礼等の電話の支援交流を行っている。便りや運営推進会議議事録・写真・動画での近況報告を事業所から発信し、家族とのつながりが途切れないように取り組んでいる。自宅付近へのドライブや墓参りに同行したり、2ヶ月に1回訪問美容の活用をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格等を把握し、良好な関係が築けるように席の配置などに気を付け、利用者同士で助け合い、支えあっている環境作りを行っている。関わり合いを持つことが困難な方は職員が橋渡しをして、孤立しないようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた時は通夜に顔をだし、初盆は訪問し個人を偲んでいる。また退所された方にも電話を入れ、困った事が無いか等お聞きしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は思いや意向に関心を払い、普段の利用者との会話や表情・仕草から思いをくみ取り利用者の自己決定やできることを大切にケアを心がけている。家族からも話を聞き記録に残している。ホームでの暮らしから新たな発見もある。	日常会話は本人の思いを引き出せるように声掛けを工夫している。困難な場合は、家族の情報を参考にしたり、日頃の関わりの中で本人の思いを汲み取るように努め、支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方を利用者・ご家族、担当介護支援専門員等関係者から情報収集をし介護計画に反映させ、これまでの生活が継続できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活リズム・心身の状態・「出来る力」「わかる力」を把握し、全職員で共有しより良い支援に繋がれるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回全職員でケアカンファレンスを行い、その後本人、ご家族、必要な関係者と話し合い具体的な介護計画を作成している。介護計画書は職員で共有できるようにファイルに綴り「施設サービス実施結果表」をもとに毎日評価をシプランに沿ったケアの確認と状態把握を行い、現状に即した介護計画を作成している。状況の変化でその都度見直しを行っている。	家族・職員と担当者会議で話し合い、事前に把握した医師及び理学療法士・職員の意見を入れて介護計画を作成している。毎日評価を実施し、月1回モニタリングとしてまとめている。3ヶ月に1回及び状況変化等の必要時に計画を見直し、現状に合った介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>利用者の状態変化、日々の暮らしの様子や本人の言葉、職員の気づきを記録し、さらに申し送りをすることで職員間の情報共有ができて、介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>24時間医療機関との連携を図り医療ニーズの対応を行っている。他科受診の付き添い、訪問歯科診療等利用者の要望に寄り添える柔軟な対応に努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域行事に参加や外部の方を招いての行事等自粛している状況であるが、ホーム内でのレクリエーション等楽しく過ごせるようにしている。図書館から本の貸し出しサービスを受けれている</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>運営母体がかかりつけ医であり利用者の健康状態に合わせた柔軟な対応が来ている。毎日病院から看護師が訪問し、健康管理を行っている。24時間の連携体制で適切な医療面での支援をしており、緊急の対応時は受診結果をご家族に報告している。</p>	<p>契約時に確認し、全員母体医療機関をかかりつけ医に希望している。月2回の受診及び必要時の往診や24時間の医療連携体制、病院看護師の健康チェック、病院朝礼時の状況報告等、手厚い支援が行われている。他科受診は家族対応であるが職員が送迎している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>隣接の病院看護師が毎日訪問し、健康管理や医療支援を行っている。体調の変化等があった場合は看護師に相談・報告し適切な処置や受診が出来るように支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した際は、ご家族の希望をお聞きし病院と連携・情報交換を図り、早期退院に向けた働きかけをしている。入院中は2週間ホームを空けて安心して治療を受け戻って来られるようにしている。入院時は落ち着けるようお見舞いに行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や看取りに対する指針を定め、家族に説明し同意をもらっている。重度化が進むと、家族、主治医、看護師、介護職員が24時間体制で連携を深め看取り介護に向けた体制を整え、安心して最期までホームで暮らせるように支援を行っている。</p>	<p>契約時に、重度化等の場合の対応について選択肢も含め指針で説明し、同意書をもらっている。重度化等の場合、医師から家族に病状説明を実施し家族の意向を確認したうえで、再度同意書をもらっている。家族の意向に沿って支援に取り組んでおり、看取り介護の事例がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>医師、看護師から急変時の初期対応の仕方を学び実践力を身に付けている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力を得て、グループホーム運営推進会議と合同で避難訓練を実施し、意見をもらっている。施設内の病院、施設と連携が取れ避難場所も確保できている。自家発電・非常食のローリングストックの管理、備蓄をしている。</p>	<p>年2回、昼夜想定で避難訓練を実施し、1回は消防署の立ち合いと運営推進会議委員の参加がある。法人内の協力体制が築かれており、病院職員の避難訓練参加もある。非常用の備蓄は、水・レトルト食品・缶詰・スープ等の食料及びカセットコンロ・自家発電を確保している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の徹底や個人情報保護法について勉強会で理解している。トイレ失敗時の声かけ・処理は利用者の自尊心を傷つけないようプライバシーに配慮した対応をしている。	研修を実施し、その人に合った言葉遣いや入室時・ケア前の声掛けを行い、入浴の同性介助や排泄介助時の羞恥心にも配慮した声掛け等、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定をする場面を意識的に作ったり、コミュニケーションを取りながら表情等を感じ取り自己決定が出来るような問いかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の状態に合わせて、無理の無いよう臨機応変に対応している。利用者のライフスタイルを大切にそれぞれの生活を送っていただけるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	利用者の好みを尊重し、本人らしい服装を選び、清潔な身なりが出来るよう支援している。訪問美容サービスを利用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	病院の管理栄養士の献立で職員と一緒に下ごしらえ等、家族的な食事の在り方を大切にしてきたが10月から配食サービスに変更した。食器洗い、お盆拭き等できることは職員と一緒にやっている。テラスでお茶会、行事食も取り入れ楽しみな食事になるように支援している。	昨年10月から配食サービスを導入し、ミキサー食や行事食にも対応している。利用者も一緒にテーブルやお盆拭き、茶わん洗いをしている。保存食づくりを利用者と一緒に行ったり、誕生日のケーキやテラスでのお茶会等で、食事を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を毎日記録し情報を共有している。食事量が低下した時は、病院の管理栄養士と相談し栄養補助食品を摂取したり食べられる物を食べられる時に提供している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。力量に合わせて、声かけ、見守り、介助の支援をしている。夜は義歯洗浄剤に浸け清潔保持に務めている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し早めの声かけや誘導を行い失敗のないトイレでの排泄支援を行っている。オムツやパットの使用方法を工夫する等してオムツ使用の軽減にも取り組んでいる。夜間帯はトイレ付き添いやポータブルトイレを使用するなど安全に配慮している。	排泄パターンに応じた声掛けを行って日中はトイレでの排泄を基本に支援しているが、居室でパット交換をする利用者もある。排泄用品は本人に併せて適切なものを経済面も考慮して使用している。夜間は身体状況等でポータブルトイレ使用やパット交換をする利用者もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が体調不良となる一つの原因であることを職員は理解している。毎日排泄チェックを行い体を動かす、水分補給等で自然な排便が出来るよう心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	職員と会話をしながら楽しい入浴ができるようにしている。入浴を拒む利用者には本人の意思を尊重し、時間を置き職員を代えて声かけを行ったり、入浴日を変えて実施する等無理強いのない入浴支援をしている。	週2回午前中の中の入浴を基本に支援し、希望があれば柔軟に対応している。身体状況等を考慮し、シャワー浴・清拭を行い、同性介助も対応している。嫌がる場合は無理強いせず、声掛けや時間を変えて入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調や、生活習慣に合わせた休息を取り入れている。朝日を浴びる外気浴、昼間は適度な運動、散歩を心がけ、生活リズムを整え気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、処方箋を綴り薬の内容、副作用について理解している。服薬時は誤薬にならないように確認しながら利用者へ手渡しする。または内服介助をし、飲み込めたか確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>一人ひとりの力が発揮できるよう、できそうな仕事をお願いし、感謝の気持ちをお伝えしている。自然に恵まれた広い庭園があり、日課の散歩が気分転換にもなっている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>庭園散歩、ゴミ出しを兼ねホーム周辺の散歩、個別でドライブ等できる範囲の外出支援を行っている。感染予防のため家族との外出、外食は自粛している。</p>	<p>敷地内の広い庭や近隣の散歩をしたり、数人でのドライブ、個別支援の墓参りを実施している。年間計画を作成しているが外出は自粛している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ホームで一定額預かり管理している。必要に応じ職員が買い物をし、出納帳に領収書を貼付しご家族に送付している。カット後美容師さんへは自ら支払うようにしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話の希望に応じ、家族とのやり取りが自由に出来るように支援している。携帯電話を持ち、家族と会話を楽しんでおられる方もいらっしゃる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは明るく、壁面装飾で季節を感じながらゆったりとくつろげる空間である。テーブルの配置は利用者の相性などを考慮し、皆で居心地よく過ごせる様にしている。	リビングは空気清浄機やエアコン・カーテンで適度な室内環境に調節し、換気は定期的に窓を開けて行っている。テーブルは車いすの通行に支障のない間隔を開けて配置している。リビングから広いテラスに出て利用者が好みの場所でくつろげるように椅子等を置き過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓辺にソファを置き、屋外は高いテント付きのテラスにテーブルと椅子を置き、ゆっくり過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で過ごしていた時のように今まで使っていた身近なもの、家族の手作りの物、家族写真を飾り家族から見守られていることを忘れない様にプライベートな空間作りを工夫している。居室からベランダに自由に出入り開放的である。	居室にはベッドやダンス・ドレッサー・エアコンが備えられ、寝具はリースである。本人は使い慣れた毛布やテレビ・カセットラジオを持ち込み、写真やぬいぐるみを置いて、掃き出し窓からベランダに出られる開放的な造りの部屋で、くつろいで過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーであり、安全に自立した生活が送れるようになっている。トイレの場所表示・避難表示・移動場所を広くとるよう安全な環境作りをしている。		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない